を強めていただきたい、協働への理解を深めていただきたいと考えます。

★地区と行政との意見交換の場をつくり、問題解決に取り組んで。

地域課題は、自治会総会等でご要望を伺い、住民アンケートでご意見をいただいています。地域と行政が協働で、未来・希望基金事業を実施して、課題解決に向けて取り組んでいただきたいと考えます。全ての部署で支援する体制です。

★高齢者福祉施設の建設計画と対策は。

本年度から3箇年の第4期介護保険事業計画で施設整備を策定しており、ニーズを見極めながら、グループホームや小規模多機能型居宅介護施設を整備していきます。

★産業・観光発展のために、産官学の提携をする予定は。観光にふさわしい町ホームページに改善しては。

町内事業者には産官学の連携により研究している方もいらっしゃると思います。産官学とならずとも、商品開発等について、事業者と関係機関が一体となって取り組めます。観光ホームページは、8月より新たに「彩りの郷かがみの観光ナビ」を運用開始しています。町ホームページは、作成ソフトを更新して、本町の動きをタイムリーで紹介できるように、今年度末までに、

国の経済危機対策臨時交付金事業でリニューアルする予定です。

★学校に太陽光発電を設置して、環境教育を行ったり、町の発電データを取ったりは。

資源ごみの売上金を地元に戻元する制度を設け、ごみ処理負担の軽減を図り、循環型社会の実現を考えては。

教育用の太陽光発電を設置して環境教育に役立たせたり、発電データを入手することは可能と思われませんが、設置費・メンテナンス費等の財政面と設置による効果が問題となります。

資源回収は町費削減にもなるため、町が報奨金を出しても、地区で資源回収して業者に引き渡す制度が必要と考え、現在、町民環境課で原案を作成中です。

★ごみ捨てや不法投棄を解決するため、年長者に森林パトロール隊をお願いして、生きがいに繋げては。

ごみは持ち帰る、捨てないという機運の醸成が重要と考えます。森林パトロール隊を検討します。

★大災害に備えた生活関連物資の調達に関する協定を、他販売会社や流通業者とも結ぶ必要があると思うが、災害を最小限にするための対策を講じたり、老朽化した土木工作物の調査が必要では。災害時の避難マニュアルを作成しているか。

品質の統一性、調達の効率性、人員確保の観点から、現在の販売店と協定しています。危険分散の見地から、多数の販売店との協定も必要です。配送とあわせて今後検討します。

町地域防災計画で避難計画を策定済みで「鏡野町土砂災害ハザードマップ」を全戸配付しています。地すべり・土石流・急傾斜地崩落危険箇所の位置・エリアと、避難場所を示しています。災害時要援護者避難支援プランは22年度に作成します。

★未来・希望基金事業で小規模高齢化集落にも未来と希望が持てる地域づくりができるのか。

未来・希望基金事業で新たに設置される地域づくり協議会で、集落の問題を自らの地域課題と捉えて、課題解決に向けて取り組んでいただきたいと考えます。

★指定管理者制度による公共施設の管理運営を今後も拡大していくのか。目的・効果・住民サービスは。

管理運営経費の削減、施設の活性化、新たなサービスの提供等による住民福祉の向上を目的としています。目的に沿うことができる施設は、今後も指定管理者による管理運営を行います。

新クリーンセンター建設に向けて

ごみ処理方式・事業方式が決定

10月28日に開催された津山圏域資源循環施設組合管理者会において、新クリーンセンターのごみ処理方式は「ストロカ・セメント原料化方式(※1)」に、事業方式は「DBO方式(※2)」に決定しました。

点から評価が行われ、その結果について、今年6月23日に答申がなされました。この答申を受け、ごみ処理方式や事業方式について、管理者会で前述の方式に決定したものです。

新クリーンセンター建設事業について津山圏域資源循環施設組合は、来年1月に住民説明会の開催を計画しています。日程等については、広報1月号などお知らせします。

※1 ストロカ・セメント原料化方式とは、全国で最も施設数が多いストロカ炉で焼却し、主灰と飛灰はセメントの原料に利用する方式です。

※2 DBO方式とは、デザイン(設計)、ビルト(建設)、オペレート(運転・管理)を一括して発注するものです。DBOとは、それぞれの英単語の頭文字をとったものです。

この件に関するお問い合わせ先
町民環境課 本山・岸川
(0868)54-2984